会　議　議　事　録

<table>
<tr><td>会　議　名</td><td colspan="3">第２回　学校関係者評価委員会</td><td>専門学校
東京工科自動車大学校世田谷校</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="4">平成２６年２月１２日（水）　１７　時　～　１９　時</td></tr>
<tr><td>会　　場</td><td colspan="4">東京工科自動車大学校世田谷校　402 教室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">参　加　者</td><td>委員</td><td>５人</td><td colspan="2">（参加者）井組　浩紀、植平　誠、森田　隆
谷川　　潮、山森　敦</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>４人</td><td colspan="2">小林　完，山口　泰之、戸辺　武、武井　和則</td></tr>
<tr><td>会　議　碌</td><td colspan="4">１．校長あいさつ
　職業実践専門課程の位置づけ、学校関係者委員会の役割、自己評価報告書の概要を説明。
２．委員の紹介、委員会成立の確認
委員の紹介および会則第 5 条の基づき、出席者が委員総数の過半の出席を満たしているため成立していることを確認した。
３．本日の議長について
　井組委員長が遅延のため、到着まで植平副委員長が議事進行を代行することが承認された。
４．議事　　※議案説明は校長
○第 1 号議案
　・前回議事録確認　　・・・[添付資料 A]
第 1 号議案　決議
第 1 回　学校関係者評価結果の説明および質疑を行った。特に質問はなく、議事録内容について全員一致で承認された。

○第 2 号議案
・平成 24 年度自己評価に基づく平成 25 年度学校関係者評価について(報告概要)
　・・・[添付資料 B]
以下の内容について説明された。
・自己点検評価　評価内容について
・特に点数が低い内容（卒業生との連携、学生支援）について</td></tr>
</table>

	平成 24 年度自己評価のまとめと質疑 ・Q．防災についてどのように取り組んでいるのか？ A．広域避難場所は「馬事公苑」、近隣では最寄りの公園を指定している。避難経路については学生の目に触れる場所に掲示している。避難訓練は実施できていない。 Q．今はいろいろな会議の前に避難場所の案内がある。学校でも実行してはどうか。 A．オープンキャンパスなどでも実施していきたい。 Q．社会的な評価について認識しているか。日常的に外部の意見を聞き、社会的評価を上げていくことが必要ではないか。 A．企業や卒業生と接触する機会があるごとに、外部評価を確認するよう取り組んでいきたい。 Q．評価が 2 点台の項目を是非来年度以降改善していただきたい。 A．委員会の意見をもとに、改善に取り組んでいきたい。 Q．就職の方向性はどうなっているのか。 A．1 級課程はメーカー系への就職が多くなっているが、整備科は従来通り整備職の就職が主体となっている。 Q．地方出身の学生への地元での就職斡旋を強化したらどうか。社会貢献という意味では必要ではないか。 A．地方への就職先は実績が少ないこともあり不十分なところもある。地元就職の魅力も伝えていきたい。 以上の質疑を持って第 2 号議案について決議を行った結果、「平成 25 年度学校関係者評価」は、「平成 24 年度自己評価」の結果に準じることが全員一致で承認された。 ○第 3 号議案 ・平成 26 年度に向けた意見のまとめ 就職率、退学防止、科目履修について、各科ごとの実績予測値を説明した。 学校関係者評価委員から出された以下の 3 点について質疑を行った。 ①学生相談及びカウンセリング体制の充実 ②社会人基礎力（人間力）の向上を図れる取り組み ③地域のイベントに関する協力 Q．退学原因はどんなものが多いのか。カウンセリングの充実で防止できるのか。 A．学校責任、学費支払い能力の欠如、事故等による不可抗力による退学の 3 つの要因に分けられる。 特に意欲減退など学校責任となる部分を改善するため、自動車業界を知るためのイベントを積極的に行うなど対策をして 25 年度は改善の方向に向かっている。今後は、教職員のカウンセリング講習などを組織的に実施し、さらに学生相談を充実させ、退学防止に努めたい。

	Q．退学希望の学生の指導はどのように行っているのか。 A．担任中心ではあるが、その他の教員とも学生指導データベースを活用し、教員間で情報を共有し、学生指導に当たっている。 Q．企業でも課題になっており、いろいろな取り組みをしている。学校のビジネスマナーの取り組みとはどんなものか。 A．企業説明会等で企業人とふれあう機会を持たせることをきっかけに、マナー教育の効果向上に取り組みたい。 Q．夜間学生の意識は高いと思うので昼間の学生にも社会経験を与える機会を持てないか。 A．高校で部活の経験がない学生が増えており、先輩後輩の関係について学んでいない。アルバイト経験も少なく社会性を持たせるのに苦労している。 Q．インターシップはあるのか。 A．4 年課程は実施しているが 2 年課程は実施していない。 Q．そう意味ではボランティアなど地域貢献はよいきかっけになっていいのではないか。 Q．人前で話すことが苦手な学生が多いとおもうが、発表会など第三者の前で話す機会はあるか。 A．授業の中に取り入れている。セミナーなどでプレゼンを経験させている。 Q．企業としては 2 年制の学生にもインターンを取り入れてほしい。1 週間程度であれば協力できる。世田谷区民祭りでの『マイカー点検教室』も、もっと多くの学生でやったらどうか。 A．カリキュラムの変更も必要なのですぐには実施できないが、今後の課題とさせていただきたい。 Q．企業と連携しアルバイト斡旋をしたらどうか。地方学生の入学促進策を行った方が良い。ビジネスマナーでは現場体験の方が効果的では。 以上の質疑を持って以下の 3 つの提案について、平成 26 年度に向けた意見として下記の決議を行った。 ①学生相談およびカウンセリングについて 　カウンセリング等の研修を組織的に実行することを決定した。具体的には　7 月に東京都専修学校各種学校主催　教職員研修夏季宿泊セミナー（カウンセリング・コミュニケーション）、12 月に東京都私学財団教育研修「発達障害への理解と援助」を担任業務を担当する教員に受講させる。 ②社会人基礎力（人間力）の向上について 　ビジネスマナー等を身につけさせることを目的にメーカー系企業へ協力依頼し、12 月または 2 月に行われる学内企業説明会に就職対象学年以外の学生を参加させる。

	③地域のイベントに関する協力 　整備振興会との連携で、毎年の恒例イベントとして 8 月に世田谷区民祭り（マイカー点検教室）への学生の参加、10 月に当校学園祭で支部の会員企業による「クルマ相談室」を開催する。 以上 3 つの項目について全員一致で承認された。 以上

会議風景

平成 25 年度

第 2 回　学校関係者評価　結果

（学校関係者評価委員会実施日：平成 26 年 2 月 12 日）

学校法人　小山学園

専門学校東京工科自動車大学校世田谷校

1. 結果

本校は、平成 26 年 2 月 12 日に「平成 25 年度第 2 回学校関係者評価委員会」を開催いたしました。第一回委員会と合わせて結果を以下にまとめます。

（1）概要

本委員会では、前回(平成 25 年 11 月 12 日)開催された第一回学校関係者評価委員会での意見について平成 25 年度本校の事業計画における取組みと現状の評価、今後の取り組みの考え方について説明を行った。これにより、平成 24 年度自己評価の各項目の取り組みについて問題はないことの確認が行われた。さらに、次年度以降の取り組みについて意見交換を行い、中長期的な課題として 26 年の学校関係者評価の継続課題とした。

(2) 結果

大項目		
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	平成 24 年度 自己評価	3.8/4.0
	第 1 回学校関係者 評価	小山学園の教育理念や目的、育成人材像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践においてもおおむね満足できる取り組みがなされている。また、各学科の教育目標、育成人材像を正しく方向付けるための一連のプロセスにおいても適切に構築されている。 一方、環境の変化に対応するための将来構想に関しては、今後も社会等の動きを見極めて柔軟に対応する必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている将来構想に関しては、科を超え全校を含めた学園としての取り組みとして、校全体で長期的に取り組んでゆく。
	第 2 回学校関係者 評価	第二回学校関係者評価　上記取組みで問題はない。
基準 2 学校運営	平成 24 年度 自己評価	3.4/4.0
	第 1 回学校関係者 評価	学校運営方針や事業計画については明確に定められており、設置法人や学校そのものの運営に関しても寄付行為や規定類により適切に運営されている。一方、専門学校教育を取り巻く環境は日々変化しており、柔軟性かつ迅速に対応できる体制を整える必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている柔軟性かつ迅速に対応できる体制整備に関しては、科を超え全校を含めた学園としての取り組みとして、校全体で長期的に取り組んでゆく。
	第 2 回学校関係者 評価	第二回学校関係者評価　上記取組みで問題はない。
基準 3 教育活動	平成 24 年度 自己評価	3.8/4.0
	第 1 回学校関係者 評価	教育目標の設定や成績評価の仕組み、教員組織等はおおむね満足できる水準に達している。特に教育方法や評価に関しては組織的に取り組んでおり教育の質保証に関しても、コマシラバスや授業シート等の独自の取り組みもあり評価できる。 今後の課題としては、自動車産業の技術革新や業態の変化に対し、産業界の人材ニーズがさらに高い教育の質を望むばかりではなく、内容も変化することも考えられるため、教育課程の編成に関しさらに研究を続けるとともに、優れた資質を有する教員を確保すること努力が必要である。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている自動車産業の技術革新や業態の変化に対し、産業界の人材ニーズが変化していることに対応した教育課程の編成見直しについては、教育課程編成委員会でも企業の委員から具体的な指摘を受けており、特に自動車技術の進歩に対応した新技術の教育内容の見直しおよび職業人としての必要な社会人基礎力の醸成について、学校内部で検討を進める体制づくり等組織的な取り組みを行う。また、学校関係者評価委員の卒業生委員からの要望でもある「社会人基礎力（人間力）の向上」についても、具体的な改善策を実施していく。

	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価　上記取組みで問題はない。
基準 4 学修成果	平成 24 年度 自己評価	3.0/4.0
	第 1 回学校関係者評価	就職については、自動車業界の幅広い分野から求人があり、学修成果が業界のニーズに結び付いていることが窺える。また、早期内定や高い就職率など満足できる水準に達していると考えられる。資格・免許取得率の向上に関しては、現状に留まることなく、さらに高い目標を目指しさらなる施策を講じることを期待する。また、卒業生の動向調査については十分に実施されているとはいえないため、今後は組織として体制を整えていく必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている卒業生の動向調査については、後援会企業を中心とした情報収集や同窓会活動の活性化により卒業生とのパイプ強化を進めているが、成果が出るまでは時間がかかる問題も多い。長期的な取り組みとして継続してゆく。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価　上記取組みで問題はない。
基準 5 学生支援	平成 24 年度 自己評価	3.3/4.0
	第 1 回学校関係者評価	就職支援や保護者との連携についてはおおむね満足できる水準に達している。一方で、毎年僅かながら退学者が発生しており、人間性を含む対応力強化、解決策の共有などについて、なお一層低減に努力する必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている退学者の低減に向けた個々の学生に対する指導については、教員側の指導の進め方の情報共有を目的とした「学生指導データベース」のさらなる有効活用を行い、学校関係者評価委員の企業委員からの要望である「学生相談およびカウンセリングについて」タイムリーな学生対応を進めてゆく。 また、自動車業界の情報を提供するため、企業と連携し講演会、企業見学、インターンシップの充実を進めてゆく。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価　上記取組みで問題はない。これらの取り組みには、教員自体のスキルアップが必要であり、企業側もその機会提供に対して協力する。
基準 6 教育環境	平成 24 年度 自己評価	3.7/4.0
	第 1 回学校関係者評価	施設・設備・教育用具等は、おおむね満足できる水準に達している。また、学外実習・インターンシップ・海外研修等への取り組みに関しても、おおむね満足できる水準に達している。一方、防災面に関しては、施設面での問題は無いが、緊急時の避難を想定した訓練および連絡体制などにおいては、さらに備えを充実することを検討すべきである。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている緊急時の避難を想定した訓練および協力体制の構築については地域との連携をもって進めてゆく。また学生および教員の連絡体制などについては IT を用いた情報提供システムを有効に活用したい。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価　上記取組みで問題はない。
基準 7 学生の募集と 受入れ	平成 24 年度 自己評価	3.5/4.0
	第 1 回学校関係者評価	学生募集活動に関しては、コンプライアンス上は適切な運営が行なわれている。 一方で、入学定員は充足できていないことから、上記に掲げた優れた教育活動やその成果などの情報発信提供方法を改善していく必要がある。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題となっている教育内容の情報発信については、学園の広報本部と連携して教育活動及びその成果を伝えるとともに発表会などの場に参加を広く呼びかける等の積極的な施策を進めてゆく。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価　上記取組みで問題はない。
基準 8 財務	平成 24 年度 自己評価	3.6/4.0
	第 1 回学校関係者評価	財務に関しては、財務基盤、予算収支計画、監査の各項目に関して問題ない。なお、財務情報の公開に関しては、第 2 回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題としていた財務情報の公開については、平成 25 年 12 月 5 日に Web サイト上で公開した。

	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価　上記取組みで問題はない。
基準 9 法令等の遵守	平成 24 年度 自己評価	3.1/4.0
	第 1 回学校関係者評価	法令等の遵守に関しては、法令遵守、個人情報保護、学校評価の各項目に関して問題ない。教育情報の公開に関しては、第 2 回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記で課題としていた「自己評価報告書」の公開については、平成 25 年 12 月 5 日に Web サイト上で公開した。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価　上記取組みで問題はない。
基準 10 社会貢献・地域貢献	平成 24 年度 自己評価	3.5/4.0
	第 1 回学校関係者評価	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献については、地元の町内会の活動、および地域の子供たちを対象とした行事へのスタッフなど、高齢化する地元社会において若い学生の参加が非常に感謝されている。また、地元中学生や修学旅行生に対する体験授業等の実施など積極的に実施している。 これらの積極的な取り組みについて、一定の評価ができる。
	上記指摘を踏まえた学校の対応	上記のように一定の評価を受けているが、次年度以降は学校関係者評価委員の地域委員からの要望である「地域のイベントに関する協力」に対し学校としての参画をしてゆきたいと考える。
	第 2 回学校関係者評価	第二回学校関係者評価　上記取組みで問題はない。

以上